広島市教育センター所報

No.15
昭和59年2月

広島市教育センター
広島市東区牛田新町一丁目17番1号
〒730　電話（082）223－3563

学習意欲を育てる

広島大学　教授　河　合　伊　六

学習意欲は学業成績を左右する重要な要因であり，授業について行けない子どもを生む原因の一つとして，多くの人々から注目されている。学習意欲の低さは，たしかに学業不振の「原因」であるが，授業について行けなくなったために学習意欲をなくした子どもも多いという事実からすれば，学習意欲の低さは，毎日の授業の中で生み出された「結果」であるということもできる。もしそうであるならば，学習意欲は，これからの授業を改善することによって，授業の中で育てることができるはずである。そのためにはどのような配慮や工夫が必要なのであろうか。以下，三つの側面について考えてみたい。

（1）　適切な教材の精選

学習意欲を喚起させるには，①子どもたちが興味や関心や好奇心をもつとともに②じゅうぶん理解できるような教材（学習内容）の精選が必要であることはもちろんである。

（2）　授業の形態と展開の仕方の工夫

さらに，授業が「わかる授業」であるだけでなく，子どもたちが自主的に取り組める授業であることも必要である。そのためには①一斉授業だけでなく，他の授業形態（例えば班討議などの小集団学習や，プリント教材などを用いた個別学習など）を活用する，②教材を細分化し，適切な順序で提示する，③授業の展開のペースを子どもに合わせる，④教示的方法だけでなく発見的方法も用いる，⑤視聴覚教材・機器やその他の教育機器を活用する，などの工夫が必要となる。

（3）　評価の工夫

学習意欲を喚起するだけでなく，それを育て，さらに勉強のはりあいをもたせるようにするには，意欲をもって勉強したら良い結果（例えば，わからないことがわかるようになった，成績が上がった，先生や級友から認められたなど）が随伴し，本人自身も成功感や達成感を体験できる状況をお膳立てする必要がある。これまでの授業研究では，上述した（1）と（2），すなわち，意欲を喚起するための「働きかけ方」に重点がおかれていたが，今後はさらに，意欲をもって勉強に取り組んだことに対する「応え方」（広義の評価の仕方）についても研究しなければならない。その内容として，例えば①授業の途中で解答が正答であることをたびたび知らせる，②テストの点数だけでなく，良くできた箇所とそうでない箇所を知らせ（形成的評価），後者の勉強の仕方を教える，③絶対評価や相対評価だけでなく，本人の実力を基準として評価する，④テスト成績の良否の原因を，運のよしあしや能力の高低ではなく本人の努力の如何に帰属させる，⑤劣っている面を指摘するだけでなく，優れている面を指摘して（個人内評価）自信をもたせる，⑥自分が伸びていることについて自分自身で評価させる機会を設けることなどがあげられる。

人生のドラマ

私の取材ノートより

評論家　上坂冬子

去る11月30日，上坂冬子先生を講師にお迎えして教養講座を開きました。その時，御本人のお許しを得て録音した御講演の内容を，当教育センターにおいて要約しました。以下，それを御紹介します。

今朝早く東京をたってこちらへまいりましたが，広島へ行くということは，広島以外のところへ行くのとは，ちょっと違っています。

どうしても広島といえば，終戦直前のあの事が思い浮かびます。

戦争とは何だろうか，それを知っている最後の世代の人間の一人として，私は，この戦中・戦後の状況を若い世代へ語り伝えることを重要な自分の仕事だと考えています。

◆　生体解剖――九州大学医学部事件

戦争末期について，私にとっては，はっきりしない問題がいくつかあります。かつて十代の記憶のなかで，疑問に感じたことを今改めて明し直そう，そう思ったものの一つが昭和20年５月17日から九州大学医学部で起こった生体解剖事件です。

この事件は，真相不明のまま，８月15日前後になると毎年のように噂されてきたものです。これは一体なんなのだろうか，はっきりさせてみたい。そういう気持ちから２回ワシントンに飛び，そこで裁判記録を全部見せてもらいました。

実際に記録に目を通してみますと，米国人捕虜８人を４回に分けて，生きたまま解剖したということがまぎれもない事実であることが判明しました。

出血多量で死亡する場合，血液の代用としての食塩水が何時間ぐらい有効かという実験や片肺を切除しても人間は生きられるかという実験で，縫合後，再び胸を開いたまま放置したことなどで，関係者は戦後，戦犯に問われています。

記録だけでは真相を究明したというわけにはいきません。３人の助教授が絞首刑，その他25年，15年等の重労の実刑のあった人々が，その後全員釈放され，今でも全国各地でひっそりと生活しておられます。私は，それらの方々からの証言を得ようと全国をまわりましたが容易にその人達の声を聞くことはできませんでした。やっとのことで，関係者のお一人に会うことができました。お話もきちんと筋の通った方でした。

「私は息子２人が医者をやっていますが，今まで医学について語り合ったことは一度もありません。それは，私自身が医学について語る資格がないからです。生きている間中ずっと良心の呵責に耐え続けなければならないと思っています。」あの時代は……という私の

ことばを，その医師は，「それをいうてはいかんのです。」と言下に否定されました。「あの時は，時代が，状況が，社会が悪かったからだというのはなんの理由にもなりません。私がしっかりしておりさえしたら，あのようなことは防げた。防げなかったのは自分が至らなかったのです。」

このような人でさえもあの時あのようなことをされたということからも，戦争はいかに冷静な人をも狂わすものだということを痛感しました。

◆ 慶州ナザレ園

戦争が終わった明くる日から平和が訪れるものではないという例は韓国慶州のナザレ園での日本人妻のうえにも認められます。

数年前のことですが，韓国に渡った私は，このナザレ園を訪れ，一人の日本人女性からお話をうかがいました。その方は佐賀のお生まれで，大正の末期，両親に連れられて海を渡り，そこで韓国の男性と結ばれました。折角恵まれた幼児も亡くなり，両親も死亡し，夫までも戦争で失ってしまい，夫の身寄りもないということでした。

今日，さまざまなケースで日本国籍のまま韓国で生活している日本人女性は約2,000人，そのうち生活に困っている人が800人くらいということです。日本政府は，これらの人々に，帰国の意志があれば旅費を支給するといっていますが，日本に生活の根拠がなく希望者も少ないようです。

このナザレ園には，穴ぐらやお寺の軒下などで生活していた人々が30人ばかり収容されていました。その後，私は25回も韓国に渡って一人一人のおばあちゃんからお話をお聞きしました。日本は韓国に対して侵略と差別をしてきたではないか。それなのになぜ韓国では日本人女性をこうして大切にしてくれるのだろうか。園長に勇気を出して尋ねますと，つぎのようなことばが返ってきました。

「あの時代に差別される側の男性のところにきてくれた人をないがしろにできますか。ないがしろにしたら私たちの体面がすたります。」こうした戦争の犠牲者が日本と韓国との谷間で今日も生き続けているのです。

◆ 残された妻

戦争の後遺症はまだ残っています。

生体解剖事件では，死刑を執行された人はいませんでした。しかし，事件以外の他の戦犯の方たち52名が国内で処刑されています。なかには，捕虜収容所長であったということで，27歳の若者が責任を問われ処刑されています。

私は，こうして処刑された方々の妻がその後どのように生きておられるかを確かめようと思いました。戦争の深い傷跡を背負って生きている方達だからです。その方達をお訪ねしますと異口同音に「もう二度とあのことは思い出したくない。どうかそっとしておいてください。」とおっしゃるのです。

でも，私は，隠された戦争悲史を少しでも記録に留めておきたいという執念で，連絡をとり続け，その結果かなりの方から取材を許されました。

3歳と2歳の子供への遺書もありました。「父はなぜ死なねばならないのかよくわからない。しかし，戦争は8月15日に終ったものではなく，終戦から平和がくるまでにはいくつもの手続きがいる。私の死が平和をもたらすのに必要なら私は死んでいこう。お前たちが平和な時代を送れるようになるのなら私の死にも意義がある……。」処刑直前の極限状態のなかで2人の子供に残せるものは，このような趣旨の手紙と血染の足形だけでした。

また，別のお一人の方は，私にこう問いかけられました。「私はスイスでは軍隊を見せてもらいました。勿論，戦争は絶対にいやですが，軍隊がなくても本当に平和にやっていけるのでしょうか。もし本当に平和にやっていけるのならこんなにすばらしいことはありません。しかし素手で反対，反対と叫んでいるだけで本当に平和は維持できるものでしょうか。私には戦争を起こしてもらいたくないが故に，このことが大変気がかりな問題です。」私は返事に窮しました。今もって考えあぐねています。今日，今も結論が出ません。皆さん方も観念論や抽象論でなく，具体的な事例をもって平和について深く考えていただきたいと思います。

教育研究二題

昭和58年度広島市立学校教育研究生18名の方々がそれぞれの専門分野での研修を終了されました。これらの方々のうち，学習指導に関する２名の方々の研究の概要を御紹介します。

運動的な遊びの充実を図る指導法
——調整力の育成を中心として——

広島市立安幼稚園教諭　**原田　知子**

幼児期は，発達の適時性から考えると，調整力の育成が重要である。そこで，現在担任している学級（４歳児，38名）の幼児を対象に調整力，特にバランスをとる能力を遊びの中で育てるための実践的な研究を進めた。

基礎的な活動として，角材を用いた教具を工夫し，これを並べその上を歩く活動を設定した。このため幼児が工夫して遊びやすい寸法の検討をして，50個を自作し，１～50の番号をつけた。また，総合的な活動では，運動的な活動パターンを難易により組み合わせ，最後は，平均台の上から，魚を釣る活動を設定した。なお，各活動の計画段階で評価の観点を決めた。例えば角材をジグザグに並べてその上を歩く活動では，①落ちずに安定して歩く。②体がぐらぐらするが落ちずに歩く。⑤落ちたらやめてしまう。（③④は省略）

この結果，基礎的な活動では，教具を直線に並べた上を歩くよりも，ジグザグ線に配置してその線上を歩く方が，バランスがとりやすかった。また，並べた角材の数によって自分が挑戦した距離が客観的にわかり，次の段階への興味を深めることになった。総合的な活動では，魚を釣る活動の場合，バランスのとりにくい子供は，平均台の上にしゃがんで動かないままで釣ったが，調整力のある子供は平均台の上に立って，移動しながら，遠くの魚も釣ったので，その数は多かった。また，活動終了直後に，幼児の感想を聞いて，心情の一面が把握できた。「胸がどきどきした」「こわかった」など，幼児にとって冒険的なスリルのある活動に挑む刺激は，調整力を高める場合においても，質の深い楽しさにつながる望ましい経験であることが確認できた。

観察力を高めるための効果的な指導法
——「太陽と月」の学習を通して——

広島市立竹屋小学校教諭　**久保　祥子**

天文教材は観測が制約されやすく，抽象的な指導になりがちである。

本研究では，月の観察を通して子どもひとりひとりが意欲的に取り組み，問題意識をもって観察記録していく指導のあり方を探った。

ＯＨＰやＶＴＲの教育機器を活用して，観察の動機づけをするとともに，天体への情緒的関心を呼び起こす神話の読み聞かせを行うことによって，観察力を高める展開を行った。

朝の月・三日月・半月・満月と観察する中で，月の形の変化や時間の経過で方位・高度が変化する日周運動のきまりをとらえさせるとともに，子ども達が月の表面の模様に気づき興味をもってさらに追究していこうとするころ，月のうさぎにまつわるインドの伝説やポリネシアのマオリ族の神話を読み聞かせ，月の模様のお話作りをしようという課題で観察させた。初めは，不定形の模様が点在したものであったが，うさぎや人の顔など，まとまった形で表現され，さらに魚に乗った少年・かくれんぼする子・天に上ったキョウリュウ等物語的になり，子ども達は興味深く観察し，天体への働きかけの楽しさを味わったようである。

月の観察記録　10月18日７時30分　　月の観察記録　10月22日11時

N君の記録より

学習後に行ったアンケートでも読み聞かせが，月の観察意欲を高めたことを統計的にも証明でき，理科学習に情緒面の指導をとり入れたことは，子どもの関心を呼び起こすのに効果があったと言えよう。

学習指導研修講座における指導者の実践発表から

去る11月14・15の両日，上記の講座を実施しました。その際，多数のすばらしい実践発表をしていただきました。今回は紙面の都合上，つぎの２名の先生方による貴重な実践の概要を御紹介します。

形成的評価をふまえた学習指導

広島市立温品小学校教諭　**寄重　弘光**

完全習得学習に共鳴するところがあり，数年来その理論に従って授業実践をした。

授業に先だって，従来の指導目標を達成度目標に，さらにこの達成度目標を形成的な目標へとより具体的なものに分析し，行動目標的に表現するよう努めた。

そのため，授業に際して児童は何を知り，何を問題とし，どう判断するかを予め想定するなかで，教材研究を進める必要が生じた。

１年：「花いっぱいになあれ」

$^{2}/_{9}$時間の場合

本時の行動目標

(1)　ゴンと風船の出会いの場面で，ゴンが風船をどう思ったかを読みとることができる。

(2)　風船のおりたところが想像できる。

・・部分は，読みこみ，暗唱する努力をとおして読み味わう。

また，想像のひろがりを大切に話し合い，発表をとおして，お互いにいろいろな考え方のあることや上手な話し方などを知る。

指導に際しては，常に指導目標にてらして児童自身の活動から「できない」—「できた」を点検（評価）し，授業展開を進める必要がある。そのためには，まず，子どもの基礎的な学力の養成が必要であり，進歩向上の段階を学級集団の実態に合わせることが重要である。また，このような努力は，一人一人の子どもに目を向けることになり，学級経営を行ううえからも大切なことだと思うし，このことは私の教育理念の一つでもある。

最後に，１題材ごとに，授業研究のなかで形成的評価を取り入れた緻密な学習指導案を作成し，適切か否かを常に問い正しながら日々の実践を積み上げることが大切だと思う。

評価をふまえ，基礎学力の充実をめざす指導法の研究——すべての生徒を目標に到達させるためのとりくみ——

広島市立庚午中学校教諭　**梶山　静海**

昨年度１年間，観点別評価を実施するにあたり，数学の全領域に観点別到達目標を具体的に提示し，節が終わるごとに観点別の形成的評価を行って指導した。

観点別評価における各観点の形成的評価において，それぞれ全問正解を㈩，半分以下を㈠として評価した。普通のテストでの満点はワンチャンスであるが，この観点別の形成的評価では各観点に満点のチャンスがあり，しかも，目標が具体的に提示されているので，とりくめば満点の可能性が高く，喜びも身近にあるのでみんなよく頑張ったようである。

この観点別評価に㈠のある生徒は，教師の再指導，友達の援助をうけて㈩の方向に努力したようである。そうしないと，それらの内容を含む合格テストにはなかなか合格しないし，合格するまで徹底した指導をうけなくてはならないので，自分の能力を最大限に出し切り目標の内容を理解して，合格を早めるため，かなり緊張したようである。

ところで，みすごしてならないのは，到達目標を提示し観点別の形成的評価を実施し，それにつづけて合格テストを実施しても，観点別の形成的評価で㈩をとる生徒が極めて多くなるとは必ずしもいいがたいことである。255名中254名の生徒が，カッコを含む方程式の計算問題を完全に解ききり，合格テストに合格したのは，教具の工夫と，多くの時間の必要な生徒には，放課後，土曜日の午後，休業日の補充によるねばり強い指導とがあったからである。最後まで指導しきる教師の指導姿勢こそが大切であると思う。

教育センターニュース

広島市教育センター開設５周年

昭和53年10月１日，当教育センターが開所されて以来，本年度ではやくも５周年を迎えました。

所長も，信井正行，久保田　尚，岩竹　亨と異動して今日に至りました。また，その間，関係各方面の御理解と御支援をいただき，昭和57年３月17日には，第二期工事も竣工し，施設，設備も飛躍的な充実をみました。

５周年を一つの節目として，これらの施設・設備を十分に生かし，研修内容・運営等に力を注ぎ，先生方のニーズにお応えできるような事業の推進を図りたいと念願しています。また，開かれた教育センターとして十分に御利用いただけるようなものとするため，所員一同今後とも努力をつづけなければならないと考えております。

海外からも教育視察

当教育センターでは，一昨年来，県外の教育関係機関の方々や，他都市の文教関係の方々の視察が相次いでいますが，昨年の秋には，海外からも２組の視察団をお迎えしました。

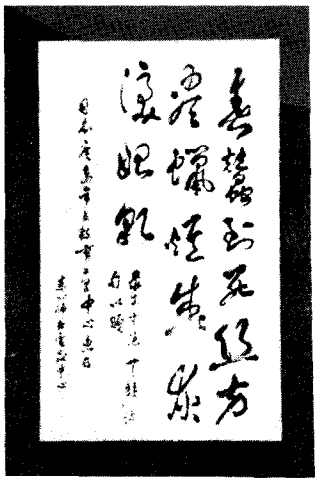
◆　西ドイツ，ハノーバー市より

来広中のハノーバー市青少年親善使節団のうち，グンター・モーザー市長室長ほか４名の方が，10月７日来所され，事業内容や施設・設備について熱心に視察されました。

写真はウルリッヒ・ライマン氏（市議会議員）が当教育センターの技術実習室で，その実技のほどを披露されているところです。

◆　中華人民共和国吉林省長春市より

11月２日，中華人民共和国東北師範大学電化教育中心（教育工学センター）教授の孫天正・韓長名の両氏が来所され，教育工学関係の施設・設備を中心に長時間にわたって視察された後，ＴＰ教材の作成など実技研修までなさいました。



写真は，その時，御持参・恵贈いただいた書です。

唐の李商隠の「無題」という詩の一節で，書き下し文に改めると次のようになります。

春蠶（しゅんさん）　死に到って　糸方（まさ）に盡（つ）き
蠟炬（ろうきょ）　灰（かい）と成って　涙始めて乾く

編集後記

今年度最後の所報をお届けします。今回は学習指導を中心に編集しました。

学習指導は，今日，さまざまな形で提起されている教育改革の問題の根底を流れているものと思われますし，教育実践の場における生徒指導の問題とも深いかかわりをもつものと考えられます。

きさらぎの水のほとりに時流れ
朱鳥

卒業式，入学式などを控えて，年度の移り変わりに学校もお忙がしい時期です。先生方の御自愛をお祈りしています。